



心あったかニュース

新しい島での生命活動

西之島で、植物の生態が確認されました。生態系のはじまりを見ているようで、ワクワクしましたので、ご紹介します。西之島は、小笠原諸島にあり、父島から130km離れています。ここも東京です。

1973年から噴火活動が始まって、2013年に陸地になりました。日本の新しい島です。今も噴火活動が続いていて、2019年の噴火で、生態系が消滅しましたが、今年の環境省の調査で、植物の生育を発見したということです。

共同通信より、環境省の調査結果では ◎植物 令和4年の上陸調査に引き続き、藻類の生育を確認しました。また、令和2年の大規模噴火後初めて、植物の生育を確認しました。大規模噴火後に西之島における植物の生育を確認できたのは初めてであり、植物の定着から群集の成立に至る一連のプロセスの解明につながると考えられます。 ◎節足動物 クロアジサシの死体から、令和4年以來確認がなかったトビカツオ

ブシムシを複数確認しました。また、令和3年以來4年ぶりに、台地上（海浜部以外）でカニを確認しました。稚ガニのみ確認されており、流れ着いた幼生が成長し台地上まで上陸していると言えます。ハサミムシは過年度の調査においては継続して生息が確認されていましたが、今回初めて北側の台地上において

も生息が確認されました。これらの節足動物は、生態学的遷移の中で、海鳥の死骸を分解することで生態系の土台である土壌を作り出す役割を担っている可能性があります。節足動物の生息状況の調査を行うことは、海鳥と同様に、西之島の生態系成立プロセスを解明するにあたって重要となります。また、アメリカシロヒトリ（北米原産の外来種。本州や父島、母島に侵入済み）の成虫1個体を確認しました。本種の幼虫は植食性であり、植物が分布しない西之島には定着できないため偶然飛来していたものと考えられますが、新たな昆虫等の侵入機会が度々あることを示しています。 ◎鳥類 カツオドリ、アオツラカツオドリ、クロアジサシ、オオアジサシ及びセグロアジサシの生息を確認できました。カツオドリ、アオツラカツオドリ、クロアジサシ及びオオアジサシについては幼鳥も確認できたことから、西之島での繁殖に、

継続的に成功していると考えられます。海鳥は、西之島のように陸上に生物が乏しい環境においても食物資源を海から得るため繁殖可能である他、種子散布、栄養塩の運搬など生態系で重要な役割を担っていることから、西之島における生態系構築の先駆者であると考えられます。地形的には、昨年度と比較して噴火による山体（陸域）の成長は認められず、山体の浸食が更に進行している状況が確認されました。火口及び山腹からの噴気を確認しました。また、火口底には灰白色の火口湖が存在し、蒸気が上がっている状況を確認しました。

編集後記

日本の新しい島で、生命が始まっています。教科書で、習ったことがリアルに知ることができ、今です。すごいですし、なんだかロマンがありますよね。頑張つてと言いたくなります。